

2010 年度第 2 回 鋼構造運営委員会議事録

日 時：2010 年 9 月 8 日（水） 15：10－17：00

場 所：富山

出席者（敬称略）： 緑川主査、五十嵐(竹内委員代理)、井戸田、内田、笠井、金子、河野(守)、多賀、高松、田上、田川、多田、田中、中島、成原、西山、藤澤、藤田、寺田

欠席者： 小河、越智、河野(昭彦)、桑村、吹田、中込、深澤、伏見、山田

資 料：

02-01	2010 年度 第 2 回鋼構造運営委員会議事予定	(緑川)
02-02	2010 年度 第 1 回鋼構造運営委員会議事録（案）	(寺田)
02-04	2010 年度 第 3 回接合小委員会議事録（案）	(田中)
02-05	鋼構造制振小委員会および WG 議事録（案）	(笠井)
02-06	耐火設計小委員会第 2 回議事録（案）	(河野(守))
02-08	2011 年度大会鋼構造 PD 案	(竹内)
02-09	重点審議資料：鋼構造制振設計指針（原稿案抜粋）	(笠井)
02-10	発行図書に対する質疑回答一覧	(多田)
02-11	AIJ 構造委員会「これからの活動」の問いかけに対する意見	(緑川)
02-12	「各種合成構造設計指針」改定講習会 会告	(田川)
02-13	WG 設置申請書「鋼構造塑性設計検討 WG」 (資料 02-03、02-07 は欠番)	(高松)

議事

1. 前回議事録の確認(資料 02-02、寺田)

- ・事前配布された議事録（案）に対する修正意見はなく、承認された。

2. 構造本委員会報告(多田)

本運営委員会の直前に開催された構造本委員会の報告が口頭にてなされた。鋼構造運営委員会に関連する主な点は下記。

- ・構造本委員会の鋼構造接合部設計指針に対する査読を、大森博司委員と山川哲雄委員に担当頂くこととなった。
- ・鋼構造塑性設計検討 WG（資料 02-13）の設置が承認された。その際、「鋼構造運営委員会担当の各指針の間で耐力式が異なっているものがあるが、統一を図れないか」旨の意見が出された。
- ・本 WG については、早急にメンバーを集めて半年間で方向性を示すこととなった。

3. 各小委員会等報告

資料に基づき各小委員会の活動が報告、審議された。

1)座屈小委員会(五十嵐)

- ・小委員会では、座屈に関する残された課題やこれから問題になりそうなことを議論している。それらをまとめ、2012 年度に「座屈に関する諸問題」を出版する予定である。
- ・2011 年度鋼構造 PD の準備を始めている。

2) 接合小委員会(資料 02-04、田中)

- ・前回の鋼構造運営委員会での重点審議で出された意見などを踏まえ、接合部指針の改定原稿作成の最終段階となっている。
- ・今年 10 月には鋼構造運営委員会の査読用原稿を完成させて運営委員会の査読を受け、引き続き構造本委員会の査読を受ける。改定版の出版を来年度秋頃と考えている。

3) 耐火設計小委員会(資料 02-06、河野(守))

- ・鋼構造耐火設計指針の改定は、平成 13 年度末出版を予定している。
- ・建築雑誌にて小委員会委員を公募したが応募はなかった。個別に交渉し委員の若干の追加をしている。
- ・耐震設計と同様に「使用限界、修復限界、安全限界」の概念の導入の可能性など検討している。

4) 環境小委員会(藤田)

- ・「建築鋼構造部材リユースガイドライン (仮称)」を目差し活動している。
- ・既に仮設構造運営委員会でリユースに関するガイドラインを出版しているが、鋼構造部材に限ってはいない。

5) 素材小委員会(成原)

- ・活動目的、テーマ等の議論を進めている。

6) 「各種合成構造設計指針」改定講習会(資料 02-12、田川)

- ・東京、大阪、広島、福岡での講習会開催が 11 月に決まった。奮っての参加をお願いします。

7) 委員会活動計画・予算原案等提出依頼(緑川)

- ・10 月 15 日締め切り。小委員会の主査は留意して下さい。

4. 2011 年度大会 PD 案について(資料 02-08)

- ・2011 年度鋼構造 PD の提案を募ったところ、座屈小委員会から(資料 02-08)が提案され、座屈問題を取り上げることが決定された。
- ・構成、発表者、時間配分などについては、座屈小委員会を中心に今後さらに検討していくこととなった。

5. 発行図書に対する質疑回答(資料 02-10、多田)

- ・読者からの質問に対してはほとんどが対応済。
- ・未対応の案件についても、現在担当の小委員会で検討中である。

6. 「構造委員会のこれから」について(資料 02-11)

- ・本テーマについて、本鋼構造運営委員会の直前の構造本委員会において議論された。下記の現状分析や意見などが出された。

<構造本委員会意見抜粋>

- ・構造研究は「じり貧」ではないが、最近はやりのエネルギーやバイオに比べれば派手さが感じられない。

- ・構造研究者は建築学会の 1/3 を占めるが、若手対象の研究公募に対する構造の若手研究者の応募が極めて少ない。
 - ・出版が低調なのは建築学会に限ったことではなく、出版業界全体の問題である。
 - ・構造研究を盛り上げるためには、特に大学入学したての若い世代を引き込むことが重要。
 - ・初学者のために構造の魅力が伝えられる出版物なども必要。 など。
- ・なお、本件はこの先も引き続き議論をしていくとのことであるが、学会構造委員会として何ができるかについて各運営委員会でも考えていって頂きたいとの要望が出された。

7. 「鋼構造限界状態設計 設計例」の重版／改定について(確認)

- ・現状のままの増刷はしないこととする。今後の改定の可能性など検討することとなった(担当：井戸田委員)。

8. 重点審議:鋼構造制振設計指針の内容について(資料 02-05、02-09、笠井)

資料 02-05 および 02-09 に基づき、笠井小委員会主査から説明がなされ、下記の質疑、意見が出された。今後はこれらを踏まえ、制振小委員会において指針執筆を進めることとなった。

なお、制振設計指針については、継続して次回重点審議とすることとなった。

<主な意見>

- ・本文・解説の形式としているが、解説に入れるべき記述が本文中に見られる。本文と解説の書き分けを整理する。
- ・モデルの適用範囲を軸力系ダンパーでは±3%、せん断系ダンパーでは±1/25 としているが、履歴の安定性は繰返しにも依存するので、限定すべきでないのではないか。
- ・せん断パネルの耐力、剛性に関する設計式は提示する。
- ・ダンパーの力学特性にはひずみ速度が影響するが、制振設計指針としてどこまで記述するかについても今後検討する。
- ・制振指針では正確な評価を追求しているが、正確さを追求すると逆に設計が難しくなる(複雑になる)可能性もある。設計者が、設計のレベルに応じて正確さを選択できれば使いやすい指針となる。簡易設計式(モデル)に対してはそれなりのマージンを考えるなど、設計段階で考えるべきこともある。
- ・資料 02-09、p1 に「強度のばらつきを低降伏点鋼と同程度の範囲に設定」とあるが、設計時に鋼材の規格値以上のスペックの指定は、実務上難しい。

など。

■次回の鋼構造運営委員会開催予定

- ・日時 2010年12月3日(金) 13:30~17:00
- ・場所 建築会館
- ・議題 各小委員会報告
重点審議:制振小委員会(継続)
他

以上(記録:寺田)